

ので、引き続き全力で取り組んでいただきたいと、かように思っております。

以上で私の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、10番、波田政和君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は2時からとします。

午後1時45分休憩

午後1時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。

本定例会一般質問は最後であります。今回は、会派代表質問で7名、それから一般質問で私を入れて11名、18名の議員さんが登壇をしております。私が最後でございますのでよろしくお願ひします。明解なる答弁をよろしくお願ひをいたします。

それでは、通告をしておりました観光客誘致対策について、4点、市長にお伺ひをいたします。

まず、1点目ですが、KEAコリア・エクスプレス・エアの就航については、前回の答弁では、韓国に訪問して要請したいとの答弁でしたが、その後の経過について説明をお願ひをいたします。

2点目は、九州カードによる韓国シンハンカードの使用は可能となるかでございますが、これも前回質問をいたしました。答弁では10月ごろインバウンドセミナーがあり、説明されるとのことでありましたが、その後の経過について説明を願ひします。

この1点目のKEAの就航についてと、2点目の韓国シンハンカードの件は、バイオマス発電の件も含めて前回の質問事項であります。しかしながら、この質問事項の各部局の対応状況が出ていないため、議会答弁等事案対応経過報告書が配付されておりますけれども、そこに質問内容が出ておりません。それで、再質問をするわけですが、今後もこのような対応をされるのか、これもあわせて質問をいたします。

次に、3点目ですが、ふえ続ける観光客に対応する施策はあるかでございますが、昨日、同僚議員が質問をされましたが、韓国人観光客は市長の言われる目標数、5年後に30万人、10年後に40万人と答弁をされておりますが、一部の新聞報道では、28年度上半期で27万人と出ておりましたが、この数が本当であれば50万人を越す勢いがあります。

去る12月10日に、オーシャンフラワー2、4,114トン、定員825人が就航し、今後、ますます韓国人観光客は増加するものと思われまゝ。思い切った施策を取り入れる体制の充実を図るべきだと思ひますが、市長の考えをお伺ひします。

次に、4点目ですが、国境離島新法についてでございます。これは、会派代表質問で5名の方が

質問をされておりますが、私は違う観点から市長に質問をしてみたいと思います。

航空運賃の低廉化、対馬福岡間の取り組みについてであります。この件については、会派代表質問でも5名の同僚議員が質問をされておりますが、私は、対馬福岡間の航空運賃の低廉化について質問をいたします。

新聞報道によりますと、対馬壱岐5島のジェットフォイル運賃の低廉化及びORCの航空運賃も低廉化されると報道されておりますが、対馬福岡路線は対象外となっております。対馬福岡路線は対馬と本土を結ぶ基幹路線であり、物流を含め、特にマグロの輸送と島民の生活経済路線として重要であるとともに、国内の観光客誘致対策としても最重要路線であると思われま。なんととしてでも、対馬福岡路線の航空運賃の低廉化を図るべきだと思いますが、市長の考えをお伺いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目のコリア・エクスプレス・エアのその後の状況につきまして、御説明申し上げます。

平成28年9月定例会で御質問をいただきました現在運休中のコリア・エクスプレス・エアの状況でございますけれども、市といたしましても、今後、さらなる外国人観光客の受け入れに向け、航路のみならず航空路を活用した誘客についても、一つの手段といたしまして、訪韓して再開のお願いをする予定をしておりましたところ、平成28年11月4日、コリア・エクスプレス・エアの代表理事が対馬市を訪問され、その際、私のほうに訪ねていただき、金浦空港と対馬空港を結ぶ国際線の再開の意思を示されたところでございます。

今回、運行再開により使用される機材は、ブラジルエンブラエル社製の50人乗りのジェット旅客機を予定されております。現在、国際線の運航再開に向け、CIQを初め、長崎県、対馬空港ターミナルビル、対馬市で協議及び調整が進められており、運行再開に係る許認可及び運行経費等の調整が整えば、運行を再開したいとの意向を示されているところでございます。

本市といたしましても、国際チャーター便の運航再開に向け、関係機関と協力してまいりたいと考えております。その際に、会長さんのほうから、この助成の件も要請を受けたところでございまして、このことにつきましては、まだまだはっきりとしたお答えはいたしておりませんが、ただ航路のほうとの関連もございまして、なかなか市としての助成は難しい。ただし、県のほうの着陸料、こちら辺は直接県知事にお会いしたときをお願いをしたところでございます。

次に、九州カードの件でございますけれども、九州カード株式会社と韓国クレジット業界最大のシンハンカードが提携し、韓国ハウスカードの利用が可能となるよう、普及活動を計画していた件につきまして御報告をいたします。

9月議会での御質問の際には、10月に九州カード株式会社による普及説明会が開催される予定でありましたけれども、実施にはまだ至ってないようでございます。市といたしましても、韓国観光客の買い物の利便性が向上し、消費の拡大につながるものと期待しているところでございますが、平成23年度に、十八銀行が企業努力でクレジット端末機を無償で設置していただいた経緯もございまして、一部の免税店等では、既に九州カード様の端末機導入がされているところでもありますので、九州カード様におかれましても、さらなる普及を目指してほしいというふうに思っております。

この九州カード様の端末機の導入につきましては、調査いたしましたところ、対馬市で4店舗ほどが、もう既に導入されているというようなことでございます。そして、この1点目と2点目の件で、議会の対応経過報告書に記載をされていなかったということでございますので、このことにつきましては、大変申しわけないとおわび申し上げる次第でございます。今後は、対応経過報告書にも、きちんと掲載した上で、議員の皆様にお示ししたいというふうに考えております。よろしくお願いたします。

3点目の観光客の誘致対策でございますけれども、増加する観光客への施策があるかという御質問でございますが、今議会では、観光振興に関する御質問を多数いただいております、重複する点もあるとは思いますが御了承いただきたいと思っております。

御承知のとおり、本年の外国人観光客は10月末現在で21万635人と、昨年同期と比較いたしました119.1%の伸びでございます。また、客船の大型化や新しいホテルの建設などもあり、来年度以降も増加傾向にあると予想されます。

市といたしましては、関係機関と連携して港湾やターミナルの整備、既存の宿泊施設のグレードアップ、キャンプ施設整備や予約システムの導入、登山道の安全対策などを行ってまいりたいと考えております。また、9月議会において、議員から御指摘いただきました対馬釜山事務所の態勢につきましても、一層の強化を図り、観光客誘致に努めてまいりたいと考えております。

行政報告でもお知らせいたしました、来年秋のユネスコ記憶遺産への登録を目指して、日韓共同で申請しております朝鮮通信使の関連資料につきましては、新たな観光資源として非常に期待をしているところであります。

今後は、朝鮮通信使遠地連絡協議会など、関係団体と連携し、関係資料を観光客が見学できるような体制づくりに努め、新しく建設する博物館への資料展示について検討しているところでございます。

このことにつきましては、対馬の市民劇団であります、11月27日に東京の早稲田大学大隈講堂で対馬物語を公演してまいりました。約1,000人収容できる会場も大方満席になっていたようでございまして、対馬の歴史を広く発信できたのではないかとこのように考えております。

す。

日本遺産の活用件でございますけども、平成27年に文化庁が認定した日本遺産につきましては、長崎県対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町の関係者を中心に結成した日本遺産国境の島推進協議会の事業として、ポスターやパンフレットの製作、厳原港・比田勝港のターミナルビルへの展示ケースの設置を行いました。このほか、対馬市交流センター3階におきましては、写真パネルを常時展示しているところでございます。

今後の予定といたしまして、日本遺産に関する後援会の開催、CATVによるシリーズ番組の制作、放映、市民向けの日本遺産バスツアーの企画等に取り組む予定でございます。

最後に、有人国境離島に関する運賃の低廉化と施策の組み立てにつきましては、現在、国の制度設計の最終調整が行われている段階でございます。確定された情報の御報告を行うことはできない状況でございますが、本市といたしましては、対馬福岡間の航空路線は島の生活路線として重要な役割を果たしており、有人国境離島法の制定の趣旨を踏まえ、地域社会の維持に必要な航空路線として、対馬福岡間の運賃低廉化の必要性を強く訴えてきているところでございます。

現在のところ、国の制度設計は定まっておきませんので、詳細につきましては御回答することができませんが、新政会代表の初村議員の質問にもお答えさせていただきましたように、本年のこの12月下旬には、国から詳細な提示がされるものと存じます。御理解を賜りますようお願いいたします。

ただ、このことにつきましては、私自身も内閣府の海本部にお願いに行きました折にお願いをしております。その際のお答えといたしまして、対馬福岡間は本来であれば県とその離島を結ぶ航路ではない、航空路ではありませんが、経済性・生活性から、重要な航路として考えているというようなお言葉をいただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 一番最初の 코리아・エクスプレス・エアの件ですが、これは着陸料というのは安いんですね、対馬空港は2,000円もあれば足りると思うんです。ですが、まあそれはそれとして、いろいろ条件はつけてくると思うんですが、対馬市の金を、例えば1人幾らですよと、そういうふうな条件には絶対に乗ったらだめだ、あくまでもこちらは強気でいて、そういうことはできませんということで交渉はしてください。

それと、対馬空港のほうにも聞きましたけども、ターミナルのほうでも受け入れ態勢はしっかりやるというようなことをおっしゃられてましたんで、そこら辺がクリアできれば観光のほうも了解できるんじゃないかなと、このように思いますんで、しっかりとやってみてください。

それから、2点目のシンハンカード、これは韓国最大のカード会社で11兆円ぐらいの規模な

んですね。そこらをやっぱり含めた中で、対馬の今のティアラは、そこを九州カードさんが入れるというような方向でいっとるらしいんです。

先日は、十八銀行の支店長さんともお会いいたしましたして、端末機が2つになるということになると、大変面倒くさい面もありますんで、何とかその十八さんの端末機で、今、市長が言われた24年ですか、これに入れてもらったのが69台ぐらいですね。今、全体で150台ぐらい入ってると思うんですが、シンハンカードを入れるということになりますと、端末機をもう一つ入れないかんということになりますので、何とか支店長さん、そこら辺をお願いできませんかというようなお話もしました。

そうしますと、やはりそのJCBカードの中に十八カードも入ってるもんですから、なかなかその対応がやりにくいというようなお話もされてました。しかしながら、やはり対馬の金融というのは、十八銀行さん、あなたのところは対馬に入ってもう140年にもなりますよと。ですから、対馬の金融というのは、あなたのところ1個で持つてるようなもんなんですから、対馬の経済をどうかするというときには、あなたとこの協力は要ると。だから、そういうことも含めて何とか協力をしてくださいというお願いはしておきました。

この1点目と2点目については、先ほど市長も言われましたが、やはりこの答弁書を配付をされるわけですが、そのときに各部局の対応状況というのは、しっかり出してもらえれば、この後、再質問をしなくていいんですね。

だから、各部長さんにはお願いしときます。そこら辺はしっかり答弁状況というのは記載してください。それで、配付をしてください。そうしますと、何回も同じことをやらなくて済みますのでね。そこら辺をよろしく願いをしときます。

この2点、ちょっと、そこまで市長、答弁お願いできますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、先ほどおわびもいたしましたけども、この議会对応経過報告につきましては、今後、このようなことがないように対応してまいりたいというふうに思います。今後とも御指導方よろしく願いいたします。

そして、1点目のKEAの関係ですけども、これを、私のほうも、KEAさんのほうには、この着陸料とか航行補助の補助金はとてもしゃないけどやるというようなことは、全く申ししておりません。むしろ、航路関係との公平性も保つために、それはやりませんけども、何とか就航をお願いしますということで、お願いをしている状況でございます。

九州カードの件につきましては、今現在、十八銀行さんのほうのカードで、利用されるカードが7種類だというようなことは伺っておりますけども、議員おっしゃられるように、ここにほかのシンハンカードとかそういうのが入れられれば、まだまだ利便性は増すわけでございますの

で、できればまたそういうことを機会があればお願いもしたいというふうに思います。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 機会があればお願いに行きますじゃなしに、出向いて行ってお願いをしてください。よろしくお願いをいたします。

それから、3点目に行きますが、ふえ続ける観光客に対応する施策ということでございます。

同僚議員がいろいろ市長に質問をされてますから、なかなか、埋めてはくるんですが、今、その厳原市街地の状況を見てみますと、博物館建設が平成32年には開館予定ですね、横町線が先ほど言われましたように平成31年度完了。

それから、厳原港の岸壁工事、これが全体になりますと32年ぐらいまでかかるだろうと。国内ターミナルが29年から31年ぐらいまで。

そうしますと、今度は、国際ターミナル建設が31年から33年ぐらいまでかかるだろうということなんで、今度、ここの382号線を見ますと、中村工区と宮谷工区、これが大体平成31年ぐらいにはできるんじゃないかというようなことですが、用地交渉の件もありますので、なかなかそこまで行くか行かんかはわかりませんが、要はそういうふうな予定がされてるみたいで。

それから、先ほど市長も言われました久田トンネルから内山坂トンネルの道路の改良、これは29年から33年ぐらいまではかかる。

それから、尾浦線のことでも先ほど市長より言われましたように、安神尾浦間は29年度からかかるということです。

そうしますと、東横インは、ホテルはそこにもう4月オープンになりました。で、大体、厳原の市街地の中というのは、大体、見えてくるんですね、開発が。

そうしますと、市長の任期というのは、平成32年なんですね、今期は。次、出れば別ですよ、今期は32年までなんです。市長の任期中に、これは大体完了していくんですよ。これは大方、もう目標が見えてます。

しかし、もう次の手を打つとかないかんと思うんですね。これで終わりますから次はありませんよじゃなしに、次の手を打たないかん。で、私が思うのは、やはりこの日本遺産もそうなんです、この日本遺産もPRの仕方が足りない。

やっぱり、この対馬の料理とその遺産の写真と含めた中でのパンフレットをつくったり、あるいは先ほど長議員が言っていましたように、町の中の飲み屋さんの紹介とか、そういうのを入れたようなパンフレットというのはつくるべきだと思うんですよ。

市長も長崎バスに乗ったら、そんなのがあったって言っていましたけども、そういうものも含め

て、例えばその飛行機のポケットの中に入れておくとか、いろんなやり方はあると思うんですよ。ちょっとそこら辺を研究してみてください。どうすれば対馬がアピールできるのかということも含めて。

それから、もう一つは、市長が言われました朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産、これは日韓共同で提出しとるわけですが、これは来年9月ぐらいに決定が出るんじゃないかなということですが、私は、この朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産認定に合わせて、やっぱり一大イベントを打たないかんと思うんですよ、一大イベントを。

ていうのは、私が言いたいのは、要は、対馬韓国交流600年祭の開催、これに合わせてですね。そして、何でもかと言いますと、宗貞茂が佐賀に府を開き、倭寇を鎮め、朝鮮との交易を始めたのは、西暦1408年、日本がオランダと交易を始めた140年も前から朝鮮との交易をしとったのが対馬なんです。これは、その鎖国時代といいますか、日本では一番古いんですね、対馬が。外国との交易をやとったっていうのは、こういうことも朝鮮通信使記憶遺産のその認定に受けて、一大イベントをここで打つことによって、それがものすごくアピールできるというようなこともあるかと思います。これはひとつ提言をしときたいと思いますが。

もう一つは、朝鮮通信使が日本に12回来てますが、そのときに乗ってきた船を復元をして、当時の往来経路を、韓国から対馬・大阪までの航海をし、これをテレビ放映することにより、対馬の歴史を日本または世界に大きくアピールできるなどと思われませんが、その船を大阪まで行って帰ってきて、お船江に係留をするということになりますと、特に、今、韓国人が多いわけですから、お船江あたりに行くと、自国の船、倭寇の船がそこに係留してあるということも、一つの目玉になろうかと思うんです。

そういう歴史的なイメージを描きながら、朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産の中で、いろんなイベントを打つことによって、それが最大限にまた発揮できて、対馬がアピールできるようになるんじゃないかな。これもひとつ検討をしていただきたいと思います。

それから、対馬、きのうも出てましたが、有明山のケーブルの話が出てました。これは、私、厳原商工会時代に厳原町時代に1回、厳原町に提言をしたことがあるんですが、なかなか費用がかかり過ぎて難しいということでした。

しかしながら、そこをよくよく考えますと、上坂から上坂に行く道を左に行きますと、権現山なんです。権現山から林道を通っていくと上坂に着くんです。上坂に展望所を1つつくると、右には韓国が見える、左には壱岐が見える、南は竜良山が見える、北には御岳が見える。ずっと全面見えるんですね。だから、そういうところも含めた中での開発も必要じゃないかなと。

あるいは、八幡神宮から登山道があります。有明に上がる道は、あすこから上がると大体1時間半ぐらいです。我々が中学校時代、あすこに遠足に行ってますけど、有明には、大体、1時

間半ぐらいかかるんじゃないかなと思います。その登山道を整備することによって、登山の好きな人は、やっぱりそこから上がって行けるということもあろうと思います。

そういうことも含めた中で、いろいろやる方法はあると思いますので、ひとつ検討をしていただきたいと思います。そこで、ちょっとひとつ、そこら辺までで答弁は願えますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、私のほう、手元のほうにメモをしたのが4点ほど、ちょっとメモさしていただきましたけども。この日本遺産につきましては、PR不足だということで、このことにつきましては、先日、自民党県連の移動政調会の折にも、県議会議員の皆さんからも、もう少しここを工夫をせんばいかんねというようなことで御指導いただきましたので、またここら辺につきましては、今後、検討をさせていただきたいというふうに思います。

そして、2番目の朝鮮通信使記憶遺産の登録イベントということでございますが、このことにつきましては、やはり登録ができた暁には、これ大きなイベントをやらんばいかんということでも出ておりますので、是非、やりたいというふうに思っております。

それから、この3番目の通信使の船の再現ということでございますが、このことにつきましては、まだちょっと気持ちの中では、是非、やってみたいという気持ちはありますけども、果たしてどのくらいの事業費がかかるものか、そういったところも、ちょっといろいろ研究をさしてほしいというふうに思います。これを大阪まで航海をして、また帰ってきてお船江に展示するということにつきましては、これはもう大きなPR効果が出ろうかと思っておりますので、そこら辺も、是非、研究をさせていただきたいと思っております。

それと、4番目の有明山の展望台も含めた整備でございますけども、この有明山の登山道につきましては、これは、今、たしか有明山はレクリエーションの森に指定されているところでございまして、登山道のほうにつきましては、林野庁のほうで整備を行うということで、先月、九州森林管理局のほうからも見えられましたので、そこら辺で、九州森林管理局と力を合わせながら進めてまいりたいというふうに思います。

そして、その際に、ほかの林野庁関係の森林等につきましても、トレッキングコース等を整備したいので、協力方よろしくお願ひしますというようなお願ひもしたところでございます。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ひとつ検討をよろしくお願ひしときます。

この観光対策をやるにしても、やっぱり大きなイベントをつくってやらんことには、今、国境離島新法ができて、その谷川代議士も言ってありましたが、誰が、いつ、どこでっていうようなことを言ってましたよね、何をやるのかって。これをはっきり示したやつをつくれというような

ことも声高らかに言っていました。

やっぱり、こういうことは明確に出した方がいいと思うんですよ。例えば、これは難問だ、難しいだろうなというようなことを、わざとぶつけていって、そして、どうかならんかというようなことも必要だろうと思います。どうぞよろしく願いしときます。

それから、今、第3次計画の中で、対馬市というのはこうやっていってるわけですが、思い切ったこの施策をやろうとすると、どうしてもその年度、年度の予算に合わせてやっていくわけですから、思い切ったことはできないと思うんです。

これでは、韓国人観光客が、今、こだけふえてきよるのに対応はできんなど。もう少し幅広く事業を展開していかんと、韓国人観光客に飽きられるようなことではいかんと。飽きられんためには、やはりその整備もしっかりせないかんと。しかし、それには予算がない、どっから持ってくるかと。そういうことを考えよつたんでは、先に移らんわけですね。

27年度の、例えば、財政状況決算を見ても、対馬市が平成16年合併をしたときには、起債残高は641億円ですね。今現在は456億円ですよ。180億円ぐらい減つとるわけですよ。起債制限比率も、今、9.8ぐらいですか。今、この起債制限比率は、本来は町時代には18%ぐらいだったと思うんですね。今は20%ぐらいになつとるんじゃないかなと思うんですが。たしか合併当時、そういう合併した市町村が多いからということで、少し、ちょっと上げたんじゃないかなというような気はしますが定かではありません。

しかしながら、18%にしても、まだまだ余裕が少しはあるのかなと。余裕言うたらおかしいですけどね。27年度の対馬市のその一般会計予算決算を見ても、329億3,619万円です。ことしも大体28年度も、今は220億円ぐらいですから、大体それぐらいに3月補正がありますから、大体そこら辺に行くのかなとは思いますが、しかし、同じような状況でやつとつてもどうにもなりません。

私が言いたいのは、要は、起債を上げてでも思い切った施策をやつたらどうですかと、起債を。交付税処置ができるような起債はなかなかないでしょうが、しかし、自分ところの金を使ってでもやるぞというようなことはできると思うんですよ。

そういうことも、やっぱり検討する必要があるんじゃないかなと。こだけ韓国人が来るのに、事業は決めたとおりにしかやつていかれません。しかし、韓国人は来るけど、要は何にもできませんよということではだめだと思うんですよ。そこら辺は考える必要があろうかと思ひますんで、そこら辺も検討を願ひます。

それから、福岡対馬間なんですけど、このORCがANA路線を譲り受けということが新聞に出てましたね。これは、対馬市はこれを了解してるんですか。それをちょっと先にお聞きしましょう。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ORCの対馬福岡路線への参入につきましては、一度、県の企画振興部長、そしてORCの社長が見えられて、その説明は受けましたけども、決してこれを了解したというわけではございません。

その際に、私のほうも、特に共同運航の件にはもう私も触れませんでしたけど、特に対馬の方は、このジェットがそうなくなるとなくなるということで、こういうことでは絶対納得はいきませんという話はさしていただいております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） この新聞を見てますと、「ORC、ANA路線譲り受け、保有機購入など国・県支援強化へ」とあります。ORCは県内を中心に離島便を就航し、行政の財政支援で経営を有する航空会社であります。さらなる支援策が必要で、業務提携先の全日空から福岡空港を発着する一部路線を譲り受け、経営の安定を図る方針であります。

また、赤字経営を国と県の補助金で賄っているのが現状であると思いますが、こういうふうな状況の会社なんですね。それを例えば、この会社が70人乗りぐらいの飛行機を今度入れて、福岡便に参入してくるという話を聞いております。

でね、今、そのジェット機の役割というのは、この対馬のマグロ、これは去年のやつをちょっと見てみますと、マグロが前年度で2万3,145本出とるんですよ、飛行機で。これは、B3ですと4トンぐらい積むんですね。ところが、70人乗りのプロペラで800キロぐらいしか積まないんです。これはマグロの航空便では送れませんよ。

それともう一つは、これは、今、先ほど言ったのは27年度なんですけどね、ことしに入っても1万6,711本出とる、10月までに。これだけのその効果があるところを、福岡便をORCに譲るということになってくると、対馬島民は大変なことですよ。

対馬人は、対馬の人たちは、福岡は経済路線ですよ。ところが、長崎は行政路線なんです。行政の人たちが、まあ行政の人もそうなんです、我々もそうなんです、長崎に本庁がありますから、そこに出張していきます。そういうところのことで行くのはORCで行くわけですが、長崎に。けども、福岡っていうのは対馬島民の人たちが買い物に行く、病院に行くというのが全部それで使うわけですよ。それが、その70人乗りになりますということになってきますと、これは大変なことになるんです。これは、ぜひ、阻止してもらわないかと。

もう一つは、この航路対策協議会つちゅうのはありますよね。大体、こういう問題が上がったときは航路対策協議会を開かれて、そこの中でいろんな協議をした中で話は進んでいくとは思いますが、しかし、今回はこれも開かれてない。全くそういうのがない中に、市長のここに来られたということなんです、それをわかりましたちゅうわけにはいきませんよね。対馬島民のこ

とを考えると、福岡路線をそのANAから譲り受けてORCにやるというわけにはいきませんよ。私は、そう思うんですがね、どう思いますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） そのことにつきましては、先ほど答弁いたしましたとおり、私自身いたしましても、まず、そのB3とQ400の就航率の問題、ジェットのB3でありますと、約98%ほどの就航率だそうです。これがQ400になりますと、風に弱いということで93%ぐらいに落ちるそうでございます。

そういう面からいたしましても、このことにつきましては、私はもう絶対このジェットの便ちゅうのは確保せんばいかんと思っておりますし、まして対馬の市民の方のことを考えますと、了解するわけにはいかないというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） その言葉を聞いて少しは安心はしたんですが、やはりこの問題は、ただ単にORCが自分とこの会社の経営を安定させるために、対馬を犠牲にしていいのかというような問題にもなるかと思うんですよ。何で我々、対馬の島民がORCのために犠牲を払わないかんのかと。

あるいはまた、この危険性があるのはORCが、やはり県や国の財政支援も受けながら、今、会社をやっているという状況ですと、もしここが赤字になりますと、対馬市の負担金が出てきます。負担金は言ってきますよ。ANAですと、これは民間会社ですから、これは赤字になりましたから言うて、対馬市に補助金出してくれとは言えませんよね。

だから、そういう危険性を含んだような会社であり、また就航率が悪く、あるいはまた貨物もそんなにたくさん積めないということになってきますと、これはどうしても、ここを入れるというわけにはいかんのかなと私は思います。

もう一つは、今現在、長崎対馬間がORCが飛んでる、これは39人乗りですか、これは全日空と共同運航してらんですけどね。ところが、そこの中の30席はANAが買い取りする、9席がORCなんです。そうしますと、同じ飛行機に乗るときながら金額が違う。金額が違うんです。ORCでその券を買った人と、ANAで買った人は同じ飛行機に乗って金額は違うんですよ。そういう状況が、またここで生まれて来るんですよ、福岡便で。

まして、このB3を撤退させるということになりますと、今、一生懸命市長にはなっていないんですが、これは代議士も一生懸命になっていただいておりますけども、要は、航空運賃、福岡対馬間を運賃を下げてくださいということで、今、一生懸命国境離島新法でお願いしよるわけですよ。

そうしますと、国内からの観光客はふえてくるはずなんです。ましてや、今度は修学旅行生ま

で入ってくる可能性があるんですね、運賃が下がりますから。そのときに、小さい飛行機にかえて就航率が悪いということになってきますと、いよいよ困りますよ、これは。

だから、対馬の将来に向けても、これはB3は絶対外すわけにはいかんと、私はそう思います。ですから、それは、市長、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。航路対策協議会も開かれてないわけです。その中でやり取りというのは、私はおかしな話だと思いますし、ましてやそれを一概に市長のどこに行ってお願ひしますということには、私はならないと思います。

これは、対馬島民のことを思ったら、市長、このORCの福岡便についての参入というのは、ぜひ、強力に拒否をしていただきたい、このように思います。どうぞよろしくお願ひしときます。

それから、あと7分ありますので、国境離島で少し、ちょっとお話しをさしていただきたいんですが、この国境離島新法というのは、本来、この対馬市が言いだしっぺなんですね。この国境離島新法っていうのは、この名前のネーミングというのは、対馬市が出しとるんです。対馬市が10年以上前から、この国境離島新法には取り組んで、歴代の市長もそうなんですが、議会の議員さんたちも特別委員会をつくって、ずっとやってきとるんです十何年、12年ぐらいになりますか。それで、やっとかっここまで来た。

そして、なかなかそれともなりませんでしたが、今度、我々がこの議会に入って、すぐ特別委員会をまたつくったんですけどね。その中でも、対馬1島でこういう問題を取り上げとつてもどうにもならんというようなことで、壱岐の市議会に行き、五島の市議会に行き、それで3島でその特別委員会をつくって、それを何とか一緒にやっというような話を、連携を取る。あるいはまた、3島で民間を入れた協議会もつくって、それも含めた中で決起大会もやりしながら、やっとここまで来たんですね。

ですから、我々が思うその国境離島というのは、日本の中で国境離島というのは3つしかないと思うんですよ。3つ。サハリンと利尻、それから利尻・礼文ですか、ここで110キロなんですね。台湾と与那国っていうのは100キロなんです。さあ、そこで今度是对馬と韓国いうたら49.5キロなんです。本当の国境ちゅうのは対馬なんです。だからこそ、国境離島新法をつくってくださいということで、一生懸命、議員さんを議会も一緒になって、今までやってきたんです。

この問題に取り組んでくれたのが、衆議院議員の谷川弥一先生ですが、ところが、国会議員ね、衆議院で475人ですよ。参議院で242人、合計の717名おられるんですよ、国会議員の先生たちが。これを谷川先生は衆議院で自分がいろいろ回って、公明党の遠山先生にもお世話になりましたけど。民主党の高木先生にもお世話になりました。いろんな人にはお世話になりました。陳情にも行かせていただきました。

しかしながら、この中で、どうしても俺はその長崎の離島はやらないかんということで頑張

ってくれたのが谷川先生、衆議院で。参議院で金子先生が頑張っていた。これで、やっとできたんですね。できた、そういうことがあったものですから、この前の自民党長崎県連の移動政調会のときに、谷川先生いわく「一生懸命やったやんか」ね、「何で言うて来んとか」ち、いうぐらいですよね。自分がつくったものの、各、そういうところから出て来んじゃ、俺の立つ瀬はないやないかということで、一生懸命、この前も我々も怒られましたけどね。しかし、それぐらいに本人も一生懸命になってくれとると、私は思うんですね。

ですから、我々はリーダーシップの対馬が、しっかりと、やっていかんと、ほかのところに負けるわけにいかんと思います。そういう腹づもりで、市長、しっかり取り組んでいただきたいとは思いますがね。先ほど言いました朝鮮ユネスコ遺産の件についても一大イベントを組むよと、それには金がかかります。これは、国境離島でやってください。

もう一つは、国境離島で言いますと、今度、カジノ法案が、あしたぐらいには通るんじゃないかなと思いますね。国境離島新法の中で、特区の申請をしていただきたいと思う、特区。先ほど言いましたように、国境の中では一番外国と近いのは対馬なんです。もし、あしたカジノ法案が通ったにしても、施行は4年後ぐらいということでありましたから、今から対馬市が手を上げれば、そこら辺もメリットは少しはあるのかなと。

特に、こんだけの外国人が対馬には来るわけですから、そういうリゾート型のカジノをつくることによって、統合型のリゾート施設をつくることによって、対馬がまた違う方向に観光産業が開けていく可能性もあろうかと思えます。

ぜひ、そういうことも含めた中で、御検討をしていただきたいと、このように思います。何か答弁があれば、ひとつお願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このIR法案についての答弁ということでございますかね。いやいや、これも、ちょっと、きょうの昼のニュースのほうでも特集があっただけなんですけども、このことにつきましては、やはり今現在、韓国のほうでも、いろいろと治安の関係とか、いろいろ問題も提議されてありましたので、そこら辺も含めまして、そして統合的に研究をしながら、またその決断といいますか、そこら辺は、まず相談をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 1分残りました。

気の弱いことでは、よその市に負けますので、がんとって、いやお願いしますって言ってくださいよ。しっかり聞いてくれますよ。よろしくお願いします。ありがとうございました。

終わります。

○議長（堀江 政武君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。